校正
地方落穂集

十三
十四

内閣文庫
和書 類
二〇一七一 號
七 冊
一八二函 七架

32
閣

史
一〇

内閣文庫
番號 和 20171
冊數 7 (7)
函號 182 146

校正地方落穂集巻之十三

目録

一 轉切支丹血脈續の事
一 切支丹類族届致方の事
一 京都町奉行所ニ有之帳面写の事
一 類族ニ出べき者の事
一 本人本人同然伺書の事
一 宗門攺の節旗本より書上文言の事
一 同大名衆より書上文言の事
一 伺證文案詞の事
一 取置證文案詞の事

閣32

一　切支丹類族病死届の事
一　同出生届の事
一　轉切支丹類族出生届の事
一　享保年中切支丹一件書付の事
一　村方より差出ス注進書の事
一　検使手代へ取置寺院村役人證文の事
一　代官より切支丹奉行へ差出ス注進書の事
一　享保十八年切支丹奉行用人へ問合の事

校正地方落穂集巻之十三目録畢

校正地方落穂集巻之十三

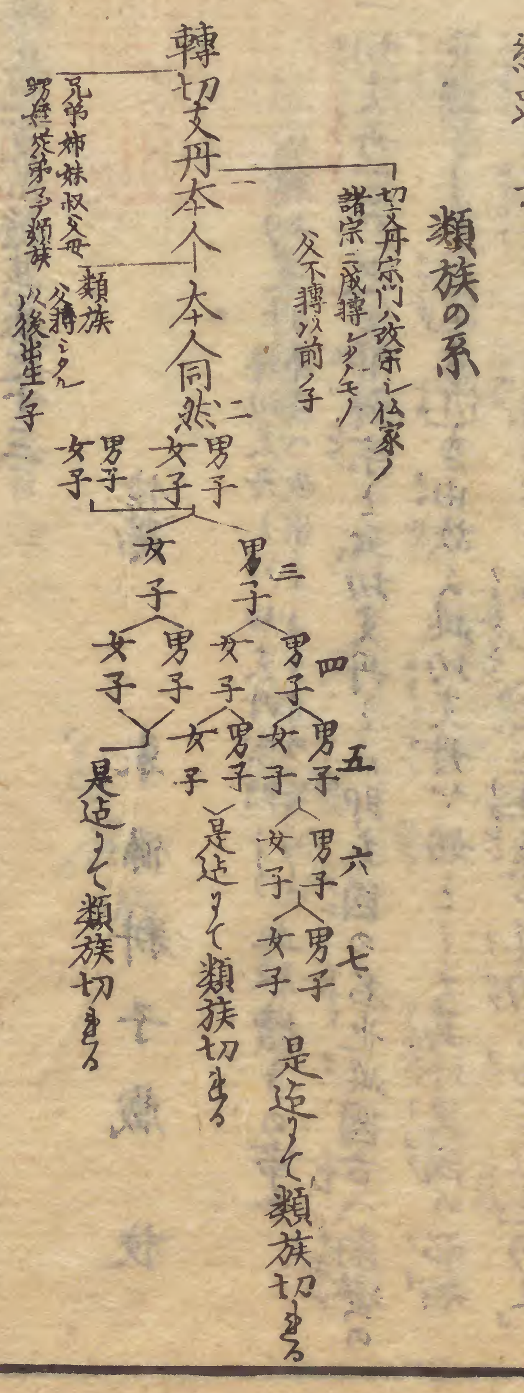
信陽　東條耕子藏　校

一　轉切支丹（轉切支丹とハ切支丹宗門より佛法へ改宗しうるものをいふ）血脈續きの事

切支丹宗門之と耶蘇宗と云切支丹とハ即ち國の名也此國古へ南蠻の屬國にして紅毛に近き由故に此切支丹を始として其外異國の船舶皇國へ航海せるの説かれど紅毛人之と注進を此功に由て紅毛のミ皇國通商の免許を得る由なり此耶蘇宗門ハ天帝を尊信なれ共忠孝の教なく儒を斥し佛を破し妖術を學び人心を惑す邪法なるに因て皇朝支那共厳しき制禁なり然るに何時の頃よりか此宗門皇國へ渡来して西國北國に蔓延し元亀天正の頃平信長殊に信せし由

其後徳川祖宗政を執りしより悉く厳重の制禁と成より然共今ニ西國筋ニハ轉切支丹の類族絶ける由此宗門の本尊を「デイウス」と称し異人の手を拱きよる形の由島原記ニ見へより今ニ至る迄西國方ニて年〻宗門吟味の節右の本尊を画きあるを下ニ敷て踏せる事あり之を繪踏と云とぞ

類族の系



轉切支丹本人
一
本人同然
切支丹宗門ハ改宗シ仏家ノ諸宗ニ成轉シタルモノ父不轉以前ノ子
類族
父轉ミタル以後出生ノ子
兄弟姉妹叔父母甥姪従弟子ノ類族
二
男子
女子
男子
女子
三
男子
女子
女子
男子
女子
男子
四
男子
女子
男子
女子
女子
男子
五
男子
女子
男子
女子
六
男子
女子
男子
女子
七
是迄ニて類族切る
是迄ニて類族切る
是迄ニて類族切る

○切支丹類族届致し方の事

一宗門改め例年七月より十一月迄ニ奉行所へ證文を差出す據なき訳ニて延引すれバ十二月ニも出す事あり年を越てハ成難し

是ハ代官所私領知行所共村〻毎年宗門改めありて男女人別怪き者一人も無之旨自分召使ニ至迄吟味の上銘〻寺証文を取置書付を以て届け有之儀あり

一轉切支丹本人同然病死　（初メ書判ニて伺ひ其後両判の取置証文出る）

是ハ右の者病死の節ハ即刻検使差遣し死骸を改め病死ニ紛なき段見届し上塩詰ニ申付旦那寺へ仮埋ニし寺より預り証文を取り又死せし者の類族共よりも証文を取書判の書付を以て之を伺ひ差図を受取置済し上両判の書付を以て取置し趣を申上前方伺ひの書付

と引替にすることなり

一類族病死　（両判の証文　但し二季届）

是ハ検使に及ばず親類共差出せし注進書の趣を以て取置申付旦那寺より取置し證文を取り七月十一月二季届の節書判印判にて出す

一變死　（両判の届但し当時の届無判ならバ二季届の内へ書入べし）

是ハ類族変死の節ハ委細の訳注進なり其節無判ならバ二季届の内へ書入べし是ハ検使差出すなり

一出生　（無判書付　二季届）

是ハ注進の度毎に元帳に書入勿論覚書に記し置二季共幾人にても記し無判にて之を出す尤も紙ハ西の内一枚にて済バ目録の様に認め二枚も入るならバ帳に綴べし但し右元帳に書入ること場所前後な

き様に致し置べし重ねて本帳認る節都合よし

一新縁　右同断

是を本人并に本人同然の聟か嫁になりし者のことなり平人にて切支丹の聟或ハ嫁になりしが類族なるに由り届書出すことなり平人の事を素人と書付るなり

一住居替　右同断

是ハ只今迄何國何村に罷居りし処何々の儀に付何方へ罷越とか或ハ奉公人ならバ主人替りし訳などと書ことなり

一帰居　右同断

是を右に反せるものにして只今迄何方に罷在し処何村へ立戻りしなどと認め出すことなり

一欠落　（当時届両判）

是ハ注進申出し節吟味を為し其筋より口上書を取り両判にて届と出すと勿論屹度お尋見當り次第申出べく旨堅く申付証文取置なり

一死罪　（伺ひに及ばず当時の届け両判なり）

是ハ罪科なりて刑に行ハるゝことなれ共前方伺ひに及ばず死罪に行ひし後早速両判にて届ることなり尤も本人本人同然ハ少し訳もあるべき歟自然本人に死罪有之節ハ奉行所役人へ内意を聞合すべし

一出家　（二季合判の届但し他所へ罷越節ハ前方之を伺ふべし）

是ハ何系何と申者出家なし法名何と申す由二季届に書入る但し他國へ罷越る行脚などに出る届ある節ハ前方に之を伺ふなり

一遁世　（当時届両判）

是ハ欠落の類にて少し軽き者なり其意味を以て吟味の書付を取べし但し當時伺なり然れ共此類ハ書判にてよし

一養子　（右同断）

是ハ素人にても養父母の系次第にて類族に成なりされバ出生同然に心得てよし

一義絶　（二季両判の届但し類族と離るゝハ無判の届なり）

是ハ仮令親子兄弟の縁を切ても元類族なれバ其系を離まじ

一離別　（右同断）

是ハ新縁の離別なれバ元の素人に成り類族と離るゝ故両判届但し離別致しても元類族にてなれバ本系へ帰するにて類族を離さざるに依て無判の届なり

一他行　（届ニ及ハズ）

是ハ仮令バ神仏詣或ハ養生の為入湯など断り立し儀ハ聞届五ケ月七ケ月なれバ願ニ任せ奉行所へ届ニ及ハズ但し長途などにて年を越さバ二季の届を為なり

一不分明者病死　（二季両判届）

是ハ系もなく且類族と斗にて決せざるを不分明者と別紙ニ認め奉行所へ差出置なり此者病死すれバ両判にて届るなり但し旦那寺証文ホの儀類族病死同然の事なり

右是迄ハ先年中の覚書と相見へ候

○京都町奉行所ニ有之帳面写の事

切支丹改覚書

一前〻切支丹宗門の由にて本人有之ニ於てハ何年以前何方にて僉議有之候て何年以前轉邪宗門の者ニ候へ共切支丹と訴人仕候ニ依て罪科御免ニ成在所へ皈り罷在候哉其訳委細書付申さるべく候事

一右轉候前切支丹のものニ有之只今迄も預ニ差置候哉又何にても面〻職を仕罷在候哉其訳一人毎ニ別〻委細書付申べき事

一最前切支丹にて轉じ申さゞる以前の子ハ男女共本人同然の儀ニ候間本人の内ニ書入申さるべく轉じ候後の子ハ男女共類族の内へ書入申さるべく候事

一前〻切支丹轉じ候後旦那寺有之候へど何宗にて平生寺へ参詣仕候哉其寺へ付届常体ニ仕候哉又珠数ホを持父母の忌日などニハ寺へ参詣候哉持仏を構へ香花を備へ候哉其趣旦那寺にて慥ニ吟味を遂又下人

等を遣ひ候者ハ其下人迄念入穿鑿致さるべき事

一切支丹の儀ハ申すに及ばず宗旨疑ハしき者有之に於てハ料所ハ代官私領ハ領主地頭へ訴へ出べく勿論役々より奉行へ早く申出べく候品に寄り屹度御褒美下さるべく候其上同類たりといへ共其科を免し仇と為ざる様仰せ付らるべく候若し隠し置後日に顕るゝに於てハ曲事たるべき事

一類族の者忌掛り候親類并に聟舅吟味有て書付申さるべく候此外ハ書付に及ばず尤も諸親類等迄他國へ放し遣し候儀無用たるべく但し參り候ハで叶ハざる儀有之に於てハ切支丹子孫の訳料所ハ代官私領ハ地頭へ申出べく候尤も何年過候ても其訳切支丹奉行へも申達し帳面書直し候様仕るべく候事

一前々切支丹宗門の者果候ハヾ死骸ハ塩詰に致し置切支丹奉行の差図次第に仕るべく候事

一類族の者果候ハヾ死骸等吟味を遂別条無之ハ旦那寺にて取置其趣帳面に記し毎年七月十一月両度切支丹奉行へ差出し帳面を除せて申事

右の趣相改め帳面に記し切支丹奉行へ差出さるべく候帳面奥書等の儀奉行中より相達さるべく候前々より切支丹宗門無之方へも心得の為め相觸候間其意得らるべく候

貞享四年卯六月

一宗門改證文例年七月より十一月限差出さるべく候但し延引の訳あらバ十二月迄にも受取るべく候年を越候ての受取有べからざる事尤案文引合せの上受取るべき事

一本人本人同然病死伺を書判

一取置証文書判印判

一本人病死の節を塩詰に致し置番人等ハ附るに及ばず菩提所の墓場な
どに仮に埋め置を伺候事

一本人類族に限らず不図他所へ罷越を果候ハヾ其処へ葬り本領へ引取
に及ばず尤も証文ハ本領ゟ出し申さるべく候事

一父切支丹宗門不憚以前の子ハ男女共に本人に準じ候訳ハ切支丹の子
ハ出生の節子細有之行跡常ならざる故不轉以前の子を以て本人同然
とん依て忌掛り其外共本人に準じ病死の節ハ即刻検使差つかハし死
骸を改め塩詰に致し取置の儀伺ひの上差図に任せ葬の本証文差出候
節右届證文引替遣ハし候事

右ハ秋元但馬守へ伊勢守より書記し進ぜられ候扣の抜書なり

○類族に出べき者の事

一本人并に本人同然の者より玄孫まで又伯父叔母甥姪従弟迄類族に出
るなり縁者ハ本人本人同然の者の聟舅姑迄出るなり但し女ハ本人本人
同然より孫限りに類族と離る勿論孫より末ハ女子の子類族と離る

一領内住居替新縁ハ領主より申付られし後無判の届二季に之を出ゆる
べく又他國へ新縁住居替等を前方に伺ひ差図の上申付べき事

一類族死罪の時ハ刑せられし後両判の証文を以て當時届なるべく尤も
前方断りに及ばず然し本人本人同然の者ハ格別なるべし但し是も手
延に為し難き儀なれば其時の品によるべし

一同葬の儀ハ火土葬共に記すに及ばず類族ハ何葬なりとも勝手次第何を

の寺へ取置しと斗り記すべし

一類族一季居又ハ渡り奉公人ハ主人の名を帳面ニ記さバ其者の出替の度毎断りニ及バず仮令書出せし共帳面ニ記すニ及バず譜代又ハ長年季ニて八主人の名帳面ニ出す也又百姓或ハ町人ニ皈住極りし節ハ二季無判の届ケ有るべし帳面引合の上居所本住所ならバ是又張紙ニ及バず

一本人并ニ類族の旦那寺院号ホ改めし節ハ二季無判の書付を以て届有るべし附借家ニて居住の類族ハ家主名主への断り右同断

一妻平人夫本人同然の妻の父母ハ類族ニ出る

一離別ハ仮令子共ある共類族を離るる男女共ニ同断但し是ハ平人の事也

一本人の妻平人ニて本人同然の子出生以後の離別是ハ其子本人同然なるニ因て其子の類族ニ離別の母も出るなり

一宗旨替又ハ旦那寺替の儀拠なき子細あらバ前方伺の上差図を受べし

一本人同然名替の儀無用たるべし若し拠なき子細あらバ伺差図の上へ書判の証文を出すべし附類族名替の儀訳立してあれバ領主江届の上へ申付二季ニ無判の証文を出すべし

○本人本人同然伺書上の事

一本人本人同然病死（当時書判ニて伺ひ両判の取替証文を出す）

一類族病死（両判の証文二季の届）

一変死（両判の証文当時届但し無判ならバ二季届ニ書入べし）

一出生（二季ともニ無判の書付）

一新縁（右同断）

一死罪（伺ニ及バず当時届両判）

一住居替（二季ともニ無判の書付）

一皈居（当時届無判）

一欠落（右同断）

一出家（二季の届無判但し他領へ逃ニハ前方之を伺ふ）

一遁世（当時届両判）

一剃髪（二季届無判但し本人本人同然ハ前方同ひ書判）

一名替（右同断）

一義絶（離別とおなじ）

一神仏詣　届ニ及ハず

一他領本人（不時ニ無判但し来秋より無用と成る）

一養子（二季届無判）

一法名（上同断）

一離別（二季届両判但し類族と離れバ無判）

一入湯　届ニ及ばず

一不分明者病死（二季届両判）

○

一類族の者の剃髪いたし法名願ひ候儀是亦申付られ二季ニ無判の書付を以て届らるべし但し本人并ニ本人同然の者ハ前方ニ之を伺ひ差図の上申付られ書判の証文差出さるべき事

一同変死当時の断りニ候へども無判の書付を以て申聞られ候ども又二季病死断り證文の内書付出され尤両判の事

一他領住居の類族の元へ引取候儀二重の届ニ候間前方伊予守より浅野式部大輔へ達し候例有之事

○宗門改の節旗本衆より書上文言の事

一札

一切支丹宗門の儀前々より懈怠なく相改申候先達仰出され候御法度書の趣僉議を遂候処自分家来知行所百姓等ニ至迄切支丹ニ紛ハしき者御座なく候之ニ依て銘々寺証文取置候事

一与力同心支配の者家来迄穿鑿を遂候処切支丹ニ紛敷者御座なく候勿論寺手形取置申候事

一此以後与力同心支配の者家来末々迄切支丹ニ疑敷者御座候ハゞ早速

申上べく候其為仍て如件

年号月日

宛所両名殿付

名判印
名乗判書

○宗門改の節大名衆より書上文言の事

一札

一切支丹宗門前々より懈怠なく相改申候先年仰せ出され候御法度の趣弥お守り私領中在々所々ニ至迄穿鑿を遂家来下々迄吟味致し候処不審成者御座なく候事

一古切支丹の者末々迄常々行跡疑ハしき儀御座なく候事

一領中在々所々家来の者下々又者ニ至る迄此以後不審成者有之ニ於てハ早々申達すべく候以上

年号月日

宛所両名殿付

名判両

○伺證文案詞の事

一何国何郡何村百姓轉切支丹誰悴父不縛以前生ニ於てハ本人同然当何月幾日何十何歳ニて病死致し候依て即刻検使差遣し死骸お改候処別条御坐なく候之ニ依て塩詰致し置候御差図次第仕るべく候以上

年号月日

誰 書判

宛所

○取置證文案詞の事

一前文伺證文ニ同し○塩詰ニ致しお伺候上御差図ニ任せ且那寺何国何郡何村何宗何寺ニて土葬ニ取置申候為其此の如くニ御坐候以上

年号月日　誰（判）

宛所

右何〻ゟ端作なし代官を拙者代官所何國何〻と書なり

○切支丹類族病死届の事

轉切支丹類族病死候覚

一何國何郡何村轉切支丹類族誰曽孫（此間除き置）誰悴当何月幾日何才ニて病死致し旦那寺何國何郡何村何宗何寺ニて取置申候

一何國何郡何村轉切支丹誰娘同国同郡誰妻当何月幾日何才ニて病死致し右旦那寺何村何寺ニて取置申候

右の通類族何人病死致し候間御断りの為此の如く御座候以上

年号月日　誰（判）

宛所

○切支丹類族出生届の事

切支丹類族出生の覚

一何國何郡何村切支丹誰悴孫当何の何月幾日出生何と申候住居宗旨旦那寺父同前ニ御座候以上

年号月日　誰（無判）

幾人ニても右の通り但し多人数なれバ一ッ書の方宜し

○轉切支丹類族出生届の事

覚

右轉切支丹誰曽孫誰悴

一誰（何宗何国何郡何村何寺旦那）當何月出生（此者居所宗旨旦那寺）父母同然ニ御座候

右の通類族何人出生致し候間御届の為如此に御座候以上

年号月日　　誰　無判

宛所

○享保年中ニ被仰出候書付の事

一類族の者只今迄ハ追放不被成候へ共以後追放申付不苦候事

一離別又ハ養子の儀ニ付類族と離れ候者ハ二季ニ両判の証文を以て相届べく候事

一変死病死死罪欠落遁世共ハ二季無判の書付を以て御届為べく候事

右の通り向後ニ心得為べく候以上

申十一月

一切支丹本人同然の内出家ハ格別の間向後ニ果候節伺ひ塩詰ニ及ばず土葬ニ成共火葬ニ成共勝手次第ニ取置候て以後二季の届の節申届らるべく候事

一本人并ニ本人同然の者出家の外ハ只今迄の通り塩詰ニ致し伺の上差図ニ任すべく候事

一類族の儀只今迄の通り替り無之事

戌五月

○村方より差出候注進書の事

一何国何郡何村百姓本人同然誰当何月幾日何才ニて病死仕候此者父誰儀何国何郡何村百姓ニて御座候処切支丹宗門の由ニて何年何月幾日御代官何の誰様へ御召捕（江戸か長崎か）へ遣され候処切支丹宗門を転じ翌何年何月幾日御奉行所様より召戻され何月ニ御成候処何年以前何の何

月幾日何才ニて病死仕候ニ付何方御奉行所様へ仰せ遣され旦那寺ニて取置候者の悴本人同然の者ニ御坐候故死骸番人付置御注進申上候右誰儀宗旨何宗何郡何村何寺旦那ニ御坐候以上

年号月日

何郡何村
名主　誰　印
組頭　誰　印
誰悴　誰　印
同人弟　誰　印

何の誰様
御役所

○検使手代へ取候寺院并ニ村役人證文の事

差上申證文の事

一前文注進書と同し○病死仕候者の悴誰本人同然の者ニ御坐候故死骸

塩詰仰せ付られ名主組頭并ニ親類五人組拙僧立合の上預置申候重て仰せ渡され次第取置仕るべく候為後日仍て如件

年号月日　何寺　印

何の誰様手代
何の誰殿

差上申證文の事

一前文右同断○取置候者の悴本人同然の者ニ御坐候ニ付御注進申上候処死骸御改の上塩詰仰せ付られ拙者共へ御預ケなされ慥ニ預り置申候此者何国何郡何村旦那ニ紛れ御坐なく候死骸の儀御下知次第取置申すべく候尤も其内損じ申さゞる様相守て申候若し不念の儀御坐候ハゞ連判の者共何分の曲事ニも仰せ付らるべく候為後日証文仍て如件

年号月日

何郡何村
誰悴
誰　印
同人弟
誰　印
五人組　誰　口
組頭　誰　口
名主　誰　口

何の誰殿手代
何の誰殿

○代官より切支丹奉行へ注進書の事

覚

一何國何郡何村古切支丹何嫡男本人同然　誰

右の者拙者代官所何国何郡何村百姓にて罷在候処当何月幾日何才にて病死仕候に付早速検使差遣し死骸を改候処別条御坐なく候間塩詰にて致し置候て差図次第申付べく候以上

年号月日　　何の誰　印

宛所（切支丹奉行両名殿付あり差出し候方の名と先えん）

覚

一何国何郡何村古切支丹誰嫡男本人同然　誰

前文右同断○別条なく候間塩詰にて致し置注進申上候処死骸取置せ申候様に差図に付何月幾日旦那寺何郡何村何宗何寺へ土葬にて取置せ申候右御注進の為此の如にて御坐候以上

年号月日　　何の誰　両判

宛所右同断（右何も此両通認め両所へ出それ〳〵先に遣し候方と先に認）

○享保十八丑年切支丹奉行用人へ問合候趣の事

丑年七月作州久米北条郡油木村住居の類族九右エ門病死ニ付届の儀木下伊賀守用人岡本八左エ門中島弥一右エ門へ問合の趣なり

一右九右衛門獨身者ニて候ニ付向後代官所類族断絶申候届の儀如何仕るべく哉の事（是ハ九右エ門一人ニて代官類族断絶の訳別紙ニ書付右の者死去の書付ニ添差出し候様ニとの事）

一右九右衛門獨身者ニ付田畑山林屋敷等所持仕らず借地致し立家ハ所の者立取せ住居致させ置候尤も少々所持の衣類農具等有之候右ハ菩提寺へ遣し度由所の者ゟ願申候事（右の儀此方ゟ構無之ニ付所の者吊料ニ寺へ遣し度由願申出候ハゞ其通り申付然るべく候）

一二季之届の節申上るべく哉の事（是ハ類族病死の節ハ二季届の筈ニ候然れ共代官所替の時の為且安堵の為ニ候向何時なり共仰せ達せられ然るべく段挨拶有之候事）

校正地方落穂集巻之十三畢

東京　大月忠興　補訂

校正地方落穂集巻之十四

目録

一口論検使願書認方
一行倒ニ死人有之節検使願書認方
一家作願書認方
一相撲願書認方
一奉行所掛の処宿預ニ成し節地頭支配への届書認方
一吟味中病氣届の事
一定免切替請證文認方○定免切替願書認方
一目安初判請書認方
一初て公事合ニ成評定所請ニ掛りへ出し節差上る差出し認方

一評定所にて差上る請書認方
一過料銭上納書認方
一片済口差出し認方
一病氣にて出牢宿預申付られし節掛り役人へ差上る請書認方
一御慈悲願書認方○評定所に於て地所見分申付られし節請書認方
一差添人代り合願書認方
一貸附役所にて村方引請未納證文案文受取書認方
一先觸認方
一内済口證文認方
一宿替願書認方
一牢屋見舞願書認方○吟味中猶豫願書認方

一吟味中掛合の上内済致度連印を以猶豫願せし処示談行届かず破談に成し節の届認方
一吟味中預人并手鎖の旅人月代爪願認方○預手鎖人有之節請書認方
一腰掛へ双方出し節翌日に呼出し請書認方
一村々へ尋の儀有之廻状にて觸達しの節否請書認方
一差紙頂戴に差日より延着の節差上る書面認方
一訴訟人に判頂戴相手銘々へ相附差日以前出府着届書認方
一奉行所より皈村申付置れし処猶又日限に付出府届書認方
一改印届書認方
一吟味中引合人に呼出れ差紙頂戴着届認方○同代引請の節書面認方
一相手取られに判頂戴差日以前着届認方

一同代引請し節同様返答書へ相添へ差出ス書面認方
一御判附られし節相手方より訴訟方へ遣ス拜見書認方
一吟味中一同連印にて日延願書認方〇同破談届書認方
一吟味中皈村願の事
一吟味中欠落せし者日限尋申付られ日限ニ相成訴書認方
一平常欠落者訴書認方
一出火届書認方
一盗賊ニ逢し節訴書認方

校正地方落穂集巻之十四目録畢

校正地方落穂集巻之十四

信陽　東條耕子藏　校

〇口論検使願書認方

乍恐以書付奉願上候（以下四ケ条端書皆之ニ傚ふ）

一何國何郡何村誰親類誰申上奉り候右誰儀用事有之幾日何時罷出候途中何村誰と口論ニ及び何所〻へ何程の疵を被り候ニ付早速醫師相掛手當仕候得共苦痛強く存命斗り難く存じ奉り候ニ付此段御訴へ申上奉り候何卒御慈悲を以て早速御検使下し置れ候様奉願上候以上

年号月日

何国何郡何村
當人誰親類
誰　印

組合　誰　印

村役人　誰　印

宛所

〇行倒れ死人有之節検使願書認方（端書上ニ同じ）

一何國何郡何村名主年寄百姓代申上奉り候當村字何と申所ニ年齢幾才位ニ相見へ候（百姓体／非人体）か（男／女）か行倒れ相果罷在候當月幾日誰見付相知せ候ニ付早速罷越見届候処衣類何品〻と着し所持の品何〻有之全く自分と行倒相果候と相見へ候間此段御訴へ奉申上候何卒御慈悲を以て早速御検使下し置れ候様奉願上候以上

年号月日

何州何郡何村

見付人　誰　印

百姓代　誰　印

年寄　誰　印

名主　誰　印

宛所

〇家作願書認方（端書上ニ同じ）

一新規家作（竪何間／横何間）　一箇所

一物置所（同／同）　一箇所

此外建物巨細ニ記ス

右ハ何國何郡何村誰奉申上候私儀所持高何十何石所持仕り家内何人暮しニ御坐候処今般何と申者の所持畑の内何畝何歩の場所へ書面の通り新規家作致し分家致させ百姓相續仕り候様致し度之ニ依て村内相糺し候へ共故障等御坐なく候然る上を右何畝歩の場所ハ相当の屋敷物成御上納仕り農業の外商ひ等仕間敷く候間何卒御慈悲を以て此段御聞済成し下し置れ候様一同奉願上候以上

何國何郡何村
願人　誰
親類　誰
組頭　誰　連印
名主　誰

年号月日

宛所

○相撲願書認方ニ端書上ニ同じ

一何國何郡何村名主年寄百姓代奉申上候此度相撲年寄何の誰何方邊より相撲ニ罷越し候節皈り掛りの由ニて兼て当村鎮守何神へハ心願ニて年来相撲奉納仕度心掛候處幸好折柄ニ付同人弟子共を以て来る幾日より晴天幾日の間相撲興行仕り度奉存候勿論木戸銭を取り又ハ花札等配り候儀ハ決して御坐なく候間何卒御慈悲を以て御聞済成し下し置され候様奉願上候以上

何國何郡何村
名主　誰
年寄　誰　連印
百姓代　誰
相撲年寄　誰

年号月日

宛所

○奉行所掛りの処宿預け申付られし節地頭支配への届書認方

乍恐以書付奉申上候

一何町何丁目誰申上奉り候何州何郡何村何出入一件の者共今幾日当御役所様より何御奉行何の誰様へ御差出しニ相成候処御同人様一ト通り御吟味の上猶又御留役何の誰様御吟味相済候て私方ニ止宿罷在候誰儀御吟味中私方へ宿御預け仰せ付られ候ニ付則右御請書差上候処追々御吟味有之べき旨ニて引取仰せ付られ之ニ依て此段御届奉申上

候以上

年号月日　右宿　何町何丁目　何屋　誰　印

宛所

○吟味中病氣届認方（端書上ニ仝じ）

何之誰知行所　何州何郡何村　誰

右宿誰申上奉り候右誰儀昨幾日迄て御日延奉願上則今日罷出掛合の上始末御届申上可く候処昨夜中より何病ニて頻ニ差詰取臥罷在御届ニ罷出候儀も相成兼候ニ付是非なく私より此段御届奉申上候尤も少しくても快方ニ趣候ハゞ早速召連御届申上べく候間右御聞済下し置れ候様奉願上候以上

年号月日　右宿　何町何丁目　何屋　誰　印

宛所

○御定免切替御請証文認方

差上申御請證文　事

当何年より何年迄何ヶ年御定免　何國何郡　何村

一高　何程

此（米　何程／永　何程）

右は当村御取箇切替御定免の儀奉願上候処再応御吟味の上書面の米永辻を以て当何年より何年迄何ヶ年御定免仰せ付らる旨仰せ渡され一同有難く奉存候尤三分以上の損毛ニ相當らげる節ハ納辨仕御検見入奉願まじく候且畑方の儀ハ一國一郡へ響き候程の損毛ハ格別仮

令皆損同様の凶作ニ御座候共容易ニ御引方成し下されざる間百姓共兼て御心得耕作仕るべく旨且又山崩されし其外の損地有之候共小前持高十分一ニ相當らざる分ハ御定免年季中ハ御引方ニ立申ざる段仰せ渡され逐く承知畏り奉り候御年貢入納方の儀も御割賦通りニ納め十二月十日限り屹度皆納て仕候

右の通り以前百姓迄一同承知奉畏候之ニ依て連印證文差上申処如件

何國何郡何村

百姓代　誰

組頭　誰　連印

名主　誰

年号月日

宛所

○御定面切替願書認方

乍恐以書付奉願上候

何年より何年迄何ケ年季御定免

一米何程　御上納辻

外米何程　切替増

右ハ何國何郡何村名主年寄百姓代申上奉り候当時田方御年貢の儀去ル何年より何年迄何ケ年季御定免仰せ付置され候処当何年季明ニ付増米を以て跡御請て仕旨先達て仰せ觸られ畏り奉り候然る処一体土地悪敷場所殊更近年不作旁く小前の者共困窮ニ募り是迄の上納辻りとも出情仕漸く取續き罷在候儀ニ付何卒御慈悲を以て前書増米ニて此上へ何年迄何ケ年御定免跡御請仰せ付られ下し置され候様奉願上候以上

何國何郡何村

名主　誰

年寄　誰　連印

百姓代　誰

年号月日

宛所

○目安御初判請書認方

御請

何〻の出入

何之誰知行所
何國何郡何村
名主誰ヵ組頭ヵ百姓ヵ
訴訟人　誰
何之誰様御知行所
何國何郡何村
何〻
相手　誰
外何人

右の通目安差上候処何月幾日御差日の御尊判頂戴仰せ付られ有難仕合奉存候然る上を皈村の上相手銘〻へ相附拜見證文を取り御差日以前着御届申上べき旨仰せ渡されを承知仕り奉畏候但し相手の者其節返答書御控とも二通宛持参罷出べき様相違し申まじき旨是亦仰せなされ奉畏候之ニ依て御請印形差上申処如件

年号月日

右
訴訟人　誰　印
差添人　誰　印
右宿
何町何丁目
何屋
誰　印

御奉行所様

○初て公事合ニ成評定所請ニ掛り候へ罷出し節差上候差出し認方

初而公事

何之誰様御掛り
何〻の出入

何之誰領分
何國何郡何村
訴訟人　誰
何之誰知行所
何國何郡何村
相手　誰

右訴訟方宿
何町何丁目
何屋
誰

同相手方宿
何町何丁目
何屋
誰

月日

右の通り認しを一枚外に掛りへの名前を書入まじくして差添人の名前を書入レを一枚都て二通差出させあり左すれバ掛りへの名前書入し方へを朱引して下るあり則是を即日訴訟方の者持参して評定所へ差上帳面に付し上又掛りへ其段御届申上ることあり（但し差出あし呈るを申上る）

○評定所にて差上る請書認方

差上申一札の事

一私共出入地所の儀御決し難に付地改御手附御手代中差遣され候間場所に於て我意立ず吟味を受都て御手附御手代衆の差図等違背仕る間敷候事

一地改御吟味中申分を立御奉行所へ差越し願出候者有之候共決して御取上御坐なく候事

一御吟味を証据次第道理次第にて相分け依怙贔屓ハ無之事に候間手を廻し頼ケ間敷儀仕る間じく若し賄賂金等差出し候節ハ御仕置仰せ付らるべく候間屹度相慎ミ申べき旨且御手附御手代中召連られ候小者衆などへ聊かの品送り候ても同様御仕置に相成候支勿論小者衆より無心ケ間敷儀申掛られ候ハヾ早々其筋へ申達し御奉行所へ申上べく候事

一地改御吟味中農業怠らず地改の場所へ無益の者罷出ず尤も不用の人

足差出させ候都て村入用多く掛らざる様致すべき事

右仰せ渡されの趣逸々承知奉畏候若し相背き候はゞ御咎仰せ付らる

為め候依て御請證文差上申処如件

年号月日

御評定所御掛り

何の誰様

何國何郡何村

訴答連印

○過料銭上納書認方

御上納仕過料銭之事

何誰領分

何国何郡何村

誰

一銭何貫文

右ハ石川主水正様御吟味の上、上州字鞍ケ嶽と唱へ候山ハ峰通り碓氷

御関所見通し遠囲りて守護仕候五料村の外登山相成難く候を相辨へ

ど旱魃に付用水乞として多人数登山致し候段不埒に付書面の通過料

銭仰せ付られ候三日の内当御役所へ相納むべき旨仰せ渡され候間御上

納仕候以上

年号月日

何誰様

御役所

右何村

誰

○片済口差出し認方

片済口御訴訟

何誰知行所

何國何郡何村

月日

訴訟人 誰

差添人 誰

訴訟方宿

何町何丁目

何屋

○病氣ニて出牢の上宿預け申付られし節牢屋敷掛り役人へ差上候請書認方

誰

差上申御請書の事

一何の誰領分何國何郡何村誰儀何之誰様御掛りニて入牢仰せ付置れ候処右誰儀病氣ニ付私方へ宿御預け仰せ付られ慥ニ預り奉り候之ニ依て御請印形差上申処如件

何町何丁目
江戸宿
誰店
誰　印

月日

何之誰様御組
何之誰様

○御慈悲願書認方

乍恐以書付御慈悲願奉申上候

一何國何郡何村百姓誰。親類誰。組合誰。奉申上候右誰儀何村誰と口論の上へ疵負せ候ニ付御吟味中入牢仰せ付られ一同奉恐入候右誰儀身分今般の御吟味筋ハ奉存らず候へ共平日實体ニて是迄不法の儀お働き候事も承り及びず別て極老の父母有之朝暮悲歎ニ沈み罷在り候不便至極ニ奉存候何卒格別の御憐愍を以て此上の御慈悲偏ニ奉願上候以上

何之誰知行所
何國何郡何村
誰　印
誰親類
誰
組合
誰
連印

年号月日

宛所

○評定所ニ於て地所見分申付られし節請書認方

是ハ前条評定所ニ於て差上候請書認方と振合同じ故之を略す

○差添人代り合願書認方

乍恐以書付奉願上候

一何國何郡何村百姓誰差添人名主組頭ゟ誰奉申上候私儀老衰の父（の母）ゟ有之持病ニて是迄打臥罷在候処此節重体ニ相成存命の程も覚束なく存生中對面致し度段相歎き越候ニ付皈村の上薬用介抱手当ニ仕度存し奉候之ニ依て代り合として同役誰出府仕候間何卒御慈悲を以て右誰へ代り合仰せ付られ下し置れ候様奉願上候以上

何之誰知行所
何國何郡何村
代り合願人　誰　印

何ノ何月

代り引受人　誰　印

宛所

○貸附所役所ニて村方引受未納證文案文請取書認方

差上申請書の事

地頭何之誰拝借金返納方別紙御案文一通御渡し遊ハされ慥ニ受取奉り候然る上ハ来る幾日本紙ニ認め右御案文添差上奉るべく候之ニ依て御請書差上申処如件

何誰知行所
何國何郡何村
役人惣代
名主　誰　印

年号月日

御貸附
御役所

○先觸認方

覚

一人足　一人

一軽尻　一匹

右は要用ニ付明幾日暁六時何方より出立ニて何州何迄罷越候間前書の人馬川々渡し舟ニ遅滞なく差出し候様肝煎給はるべく候尤定の賃銭相払ひ罷通り申べく候

月日

何之誰内
何之誰

右宿々
問屋中

是より奥へ泊り宿々順ニ記す

○内済口證文認方

差上申内済口證文の事

一何國何郡何村誰奉申上候私より何國何郡何村誰外何人相手取貸金滞出入申立当御奉行所様へ出訴奉り当幾日御差日の御尊判頂戴相附候処相手の内何國何郡何村誰外何人の者より滞金高何程の内何程期月證文を取り残金何程を何々の積りニ致し申分なく熟談内済仕偏ニ御威光と有難く仕合ニ奉存候且何國何郡何村誰滞金何程ハ未だ相済申さず候間此分御吟味奉願上候之ニ依て内済口證文差上申処如件

何誰知行所
何國何郡何村
年号月日
誰　印
宛所

○宿替願認方

乍恐以書付奉願上候

一何國何郡何村誰奉申上候私儀是迄（マデ）何町何丁目何屋誰方（タレカタ）ニ止宿（シシユク）罷在候処此度何町誰方へ宿替（ヤドガヘ）仕り度両宿掛合（リヤウヤドカケアイ）ニ及ひ候処故障（コシヤウ）無之候間何卒御慈悲（ジヒ）を以て願の通り仰付られ下し置れ候様奉願上候以上

年号月日

何國何郡何村

願人　誰　印

差添人　誰　印

両宿連印

宛所

○牢屋見廻（ミマイ）願書認方（端書（ハシガキ）上ニ同じ）

一半紙（ハンシ）　二帖　一手掛（テヌグイ）　一筋　一銭　何程

一食物類（シヨクモツルイ）　何品　一幾品（イクシナ）

右を先達（サキダツ）て入牢（ジユラウ）仰せ付られ候誰方へ書面（シヨメン）の品々送り遣（シナジナヲクリツカハ）し度奉存候間何卒御慈悲を以て右誰方へ相届（トヾキ）候様（ヤウ）仰付られ下し置れ候様奉願上候

以上

年号月日

何國何郡何村

願人　誰

差添人　誰　印

右宿

何町何丁目

百姓宿　誰　印

宛所（宛名を時の掛り役人の名を認め参り）

○吟味中猶豫願書認方（端書上ニ仝じ）

一何國何郡何村一件（ケン）の者共奉申上候私共出入（デイリ）当時（トウジ）御吟味（ギンミ）中ニ御座候処掛合（カケアイ）の上熟談（ジユクダン）内済（ナイサイ）仕度奉存候間何卒（ナニトゾ）御慈悲（ジヒ）を以て来る幾日（イクカ）迄（マデ）御吟味御猶豫（ユウヨ）成し下し置れ候様（ヤウ）一同連印（レンイン）を以て奉願上候以上

何誰領分

何國何郡何村

月日

訴訟人　誰　印

同　同　相手方　誰　印

同　同　引合人　誰　印

宛所

〇吟味中掛合の上内済仕度一同連印を以て猶豫願致し掛合ニ及ひし処示談行届兼候ニ付破談届認方

乍恐以書付奉申上候

一何國何郡何村一件の者共奉申上候私共出入御吟味中ニ御坐候処掛合の上熟談仕度奉存候ニ付昨幾日迄御吟味御猶豫奉願上精ゝ掛合ニ及ひ候へ共行届申さす候ニ付是非なく破談御届奉申上候以上

月日

訴答并ニ
引合人　連印

宛所

〇吟味中預人并ニ手鎖御申付置候旅人月代爪願書認方

乍恐以書付奉願上候

何國何郡何村
　誰

右の者儀御吟味中手鎖の上私共へ御預け仰せ付置され候ニ付屹度相慎ミ置せ候処右誰儀月代長髪ニ罷成眼病ニて難儀至極仕候旨私共へ相歎き候間何卒御慈悲を以て月代爪仰せ付られ下し置されハ偏ニ奉願上候右願の通御聞済成下し置され候ハゝ有難く仕合ニ奉存候以上

月日

右誰差添人
　誰　印

右宿
何町何丁目
　誰　印

宛所

○御預け手鎖人有之節請書認方

差上申御請書の事

何國何郡何村
誰

右の者儀御吟味中私方へ宿御預け仰せ付られ承知奉畏候然る上ハ屹度為慎せ置御用の節ハ早速召連罷出へく候之に依て御請書差上申候仍如件

月日

宛所

右宿
何町何丁目
誰　印

○腰掛へ双方罷出し節翌日御呼出し請書認方（但し是ハ訴訟方宿よりも認へき事）

御請

一何國何郡何村一件の者共明幾日召連罷出べき旨仰せ付られ承知畏り奉候然る上ハ右刻限遅滞なく召連罷出べく候之に依て御請書差上申仍如件

月日

宛所

訴訟方宿
相手方宿
引合人宿
一同連名印

○村こへ御尋の儀有之廻状にて觸達の節否御訴書認方

乍恐以書付奉申上候

一何國何郡何村名主誰奉申上候御觸の趣何々の者取調べ候へ共当村方右体の者無御坐候之に依て此段御届奉申上候以上

何國何郡何村
名主　誰　印

月日

宛所

○御差紙頂戴御差日より延着の節差上候書面認方（端書上ニ仝じ）

一何國何郡何村誰奉申上候私儀御尋の儀有之早々罷出べき旨御差紙頂戴拜見承知奉畏候則幾日出立仕候処途中に於て持病の何々差起り漸く昨日夜何時江戸着仕則御届奉申上候右延着の段御宥免成し下し置れ候様奉願上候以上

年号月日

何誰知行所
何國何郡何村
何々
誰 印
差添人
誰

宛所

○訴訟人御尊判頂戴相手銘々へお附御差日以前出府着届認方（端書上ニ同じ）

一何國何郡何村何誰奉申上候私より何方何誰外何人相手取何月中御訴訟奉申上候処何月幾日の御尊判頂戴相手銘々へ相附拜見証文之レ取則出府仕候間此段着御届奉申上候以上

年号月日

何國何郡何村
訴訟人
誰 印

宛所

○奉行所より皈村申付置れし処又候日限に付出府着届認方（端書同上）

一何國何郡何村何誰奉申上候私より何方誰外何人へ相掛り候何々の出入御吟味中に御坐候処旧冬月迫に及び候に付今幾日まで一ト先皈村仰せ付られ候処則御日限に付出府仕候間此段御届奉申上候以上

年号月日

何誰知行所
何國何郡何村
何々
誰 印
差添人
誰

宛所

○改印届書

乍恐以書付御届奉申上候

一印鑑　㊞

右ハ私儀是迄所持仕候印形欠損じ候ニ付此度改印仕候之ニ依て此段御届奉申上候以上

年号月日

何誰支配所
何國何郡何村
何々　誰　印

宛所

○吟味中引合人ゟ呼出し御差紙頂戴着届認方

乍恐以書付奉申上候

一何國何郡何村何々誰奉申上候私儀御尋の筋御座候ニ付早々（或ハ幾日迄とか又）（病気ニ候ハヾ篭ニて成共）罷出べき旨御差紙頂戴拜見承知奉畏候則出府着御届申上奉り候以上

年号月日

何誰支配所
何国何郡何村
何々　誰　印
差添人　誰

宛所

○吟味引合人呼出しの差紙頂戴致し代引請の節書面認方（端書上ニ同し）

一何國何郡何村誰煩ニ付代兼誰奉申上候今般御尋の儀御座候ニ付罷出べき旨御差紙頂戴拜見奉畏候前書誰儀も一同罷出べく候の処持病の何々差發り平臥仕居罷出難き旨相歎候間是非なく私代引請出府着御届奉申上候尤も右誰へ御尋の儀も私より差支へなく御請申上奉るべく候此段御聞済成し下し置かれ候様奉願上候以上

右同断
誰煩ニ付

年号月日

何々代兼
誰　印

宛所

○相手取られ御尊判頂戴御差日以前着届認方（端書上ニ同じ）

一何國何郡何村誰奉申上候今般何方誰より私へ御掛り何々出入の旨申立当御役所様へ出訴奉り何日御差日の御尊判頂戴仕御附候ニ付拝見承知奉畏候則出府仕候間此段御届奉申上候以上

右同断

年号月日

何々
誰　印

宛所

○右同断代引請し節同様返答書へ御添へ差出候書面認方（端書上ニ同し）

一何國何郡何村誰煩ニ付代兼誰奉申上候今般何方誰より私共へ御掛り候何々出入の旨申立当御役所様へ出訴奉り幾日御差日の御尊判頂戴相附候ニ付誰儀も一同罷出べく候処何々の病気にて此節別て差重り罷出難き旨相歎き候ニ付余儀なく私引請代として罷出候尤も右誰へ御尋の儀も私より聊か相違なく御答申上べく候間何卒御慈悲を以て此段御聞済成し下し置かれ候様奉願上候以上

右同断

誰煩ニ付
代兼
誰　印

年号月日

宛所

○御尊判附られし節相手方より訴訟方へ差遣る拝見書認方

一札之事

一今般貴殿より我等へ御掛り何々の出入何の誰様へ御訴訟なされ何月幾日御差日の御尊判頂戴仕御附られ承知畏り奉り候御差日幾日以前

何月幾日銘々返答書控とも二通ヅヽ右御掛り御役所へ着届申上べき旨仰せ渡され候趣御達しなされ是亦承知仕候且御判物の儀ハ墨付汚等御坐なく候（預りし方ニてハ候奉預り候書入べし）慥之ニ依て御請印形差出申処如件

年号月日

何国何郡何村

当人　誰

五人組　誰　連印

名主　誰

誰殿

○吟味中一同連印ニて日延願書認方

是ハ前条吟味中猶豫願と認方同様なる故之を畧す

○右同断破談届書認方

是ハ前条吟味中内済仕度猶豫奉願候処行届かず破談ニ相成候届と同様なる故之を畧す

○吟味中皈村願書認方

乍恐以書付奉願上候

一何國何郡何村誰奉申上候私儀誰より誰へ相掛り候一件ニ付召出され御吟味中ニ御坐候処老衰の父一人有之候て是迄打臥罷居候処此節ニ至り追々差重り最早老年の上の儀存命の程も覚束なく候間存生中今一度對面致し度旨相歎き越候ニ付皈村の上薬用介抱手当等仕度奉存候間何卒御慈悲を以て一先皈村仰せ付られ下し置され候様奉願上候勿論此上御用の儀ハ何時成とも早速罷出候間此段御聞済成し下し置され候ハヾ有難き仕合ニ奉存候以上

年号月日

右同断

誰　印

宛所

○吟味中欠落致せし者日限尋申付置され候日限ニ成訴書認方

乍恐以書付御訴奉申上候

何誰支配所
何国何郡何村
何々
誰

右の者欠落仕り行方相知れ申さず候ニ付其段御訴奉申上候処追て尋方仰せ付られ猶亦先月幾日より昨幾日迄三十日限り尋方仰せ付られ奉畏心当の所々油断なく相尋候へ共今以て行方相知れ申さず候最早御日限ニ付此段余義なく御訴奉申上候以上

何誰支配所
何國何郡何村
誰　印

年号月日

宛所

○常体欠落訴書認方（端書上ニ同じ）

何國何郡何村
誰

右の者何親（兄）ヶ誰并ニ親類組合村役人一同奉申上候前書誰儀当何月何日不図家出仕り立皈り申さず候間心当りの場所精々相尋候へ共行方相知れ申さず候尤も何故家出仕候哉心当りも無之右ニ付出入掛り合等も申し来らず候へ共出先ニ於て何様の儀出来候も計り難く安心仕らず候間此段御訴奉申上候以上

右同断
右親（父）ヶ　誰
親類　誰　印
名主組合連印

年号月日

宛所

○失火届書認方（端書上ニ同じ）

一　焼失家（竪幾程　横幾程）

一　物置所（月日）

外焼失せし箇所巨細ニ記ス

何國何郡何村　誰

右者何國何郡何村名主年寄百姓代一同奉申上候前書誰儀家内幾人暮ニ御坐候然る処当月幾日夜何時頃囲爐裏の灰能く志めし居宅続き物置所へ取置候処火消へ残り有之候哉同夜何時頃右場所より燃立候と誰見付声立候ニ付村内の者其外駈付油断なく防ぎ候へども折節風烈しく居宅物置所其外とも残らず焼失仕尤も村内御高札場ハ勿論外類焼家人馬怪我ホ一切御坐なく候且何ニても怪しき風聞ホ御坐なく全く手過ち相違無之前書誰儀ハ恐入村内菩提所何院へ入寺仕相慎ミ罷在候間此段御訴奉申上候以上

年号月日

右同断　百姓代　誰

年号月日

年寄　誰　連印
名主　誰

宛所

○盗賊ニ遭し節訴書認方（端書上ニ同じ）

一　何品　幾箇

一　何品　幾箇

右者何國何郡何村誰奉申上候私家内何人暮しニて農業の間何渡世仕罷在候然る処当月幾日夕飯給仕廻夫ゝ戸締りホ致し尤も錠前ニ心付ず家内一同臥り候処同夜何時頃と覚へ便所ニ参るべくと起出見候へば表裏ゟ入口の戸明有之候ニ付不審ニ存家内穿索仕候処右の品ゝ相見へ申さず全く右の場所より盗賊忍入盗去り候儀と奉存候早速所ゝ相尋候へ共怪敷風聞手掛りホ一切御坐なく候間此段御訴奉申上候以上

何國何郡何村

年号月日　　何々　誰　印

宛所　　村役人　誰　印

東京　大月忠興　補訂

校正地方落穂集巻之十四畢

明治三年庚午九月

東京　晩翠書屋藏版